

MV-22 オスプレイの米陸軍トリイ通信施設における飛行訓練に断固反対し、中止を求める抗議決議

平成25年4月9日に米陸軍より読谷村に通知された文書により、MV-22 オスプレイの飛行訓練を人員輸送のため、米陸軍トリイ通信施設において5月2日と3日に行なうことが明らかになった。

MV-22 オスプレイは開発段階から過去に墜落死亡事故が相次ぎ、米國務省がまとめた報告書でさえ、エンジンや飛行制御システムの欠陥が指摘され、技術的な問題に加え、安全性に疑問が持たれてきた。このような欠陥機を日米両政府は沖縄県民の意見を全く無視し、平成24年10月に普天間飛行場に強行配備した。このような一方的な県民の命と暮らしをかえりみない県民差別の強行配備に対して県民の怒りと不信感が渦巻く中、米陸軍トリイ通信施設におけるMV-22 オスプレイの飛行訓練はまさに基地機能の強化であり、読谷村民に新たな被害と不安を強いるものであり、言語道断、断じて許せるものではない。

読谷村においては、今から48年前の1965年に米軍ヘリから投下されたトレーラーにより小学生が圧殺死亡するという痛ましい事件が起きている。その後も、米軍機による演習から派生する事件事故は枚挙に遑がなく、戦後68年が経過した今日も、村民の生命財産が脅かされ続けている。

よって、読谷村議会は村民の生命、財産、安全を守る立場から、MV-22 オスプレイの米陸軍トリイ通信施設における飛行訓練に断固反対するとともに、下記事項について強く要求する。

記

1. MV-22 オスプレイの米陸軍トリイ通信施設における飛行訓練を中止すること。

以上、決議する。

平成25年4月30日

沖縄県読谷村議会

宛て先

駐日米国大使、在日米軍司令官、在日米軍沖縄地域調整官、在沖米国総領事
在沖海兵隊基地司令官、在沖米陸軍基地管理本部

決議第3号

MV-22オスプレイの米陸軍トリイ通信施設における飛行訓練に断固
反対し、中止を求める抗議決議

上記の議案を会議規則第14条第1項及び第2項の規定により提出します。

平成25年4月30日提出

読谷村議会 議長 新垣 修幸 殿

提出者	読谷村議会議員	上地 榮
賛成者	読谷村議会議員	伊佐 眞武
	同	仲宗根 盛良
	同	伊波 篤
	同	大城 行治
	同	當間 良史
	同	城間 勇
	同	長浜 宗則
	同	國吉 雅和